



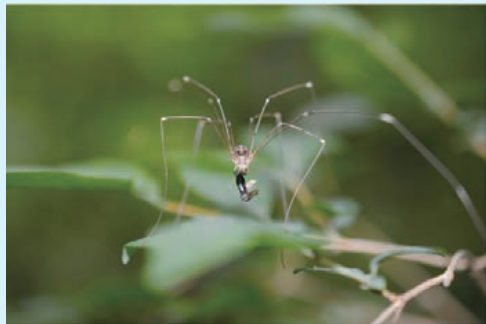
## 森林レンジャーがゆく (101)

### 森の貴婦人

体長約1cmの丸い体に長い脚。この写真の生き物を知っていますか？クモではありません。クモやダニと同じ鋏角類の仲間です。ザトウムシといます。4億年以上前の化石も見られているはるか昔からこの地球に暮らす生き物です。まだ分かっていないことが多い生き物ですが、市内の森林で初夏から晩秋まで様々な種を目にします。私の感覚だと、乾燥している所よりは沢沿いで、気温が低い時間よりも温かい時間に、けれど、日なたよりも木陰で出会うので、見た目はさておき「貴婦人」のような存在です。秋が深まるころによく目にするため「Harvestman (収穫する人)」と呼ぶ国もあるそうです。

ザトウムシの体には小さな眼が1対ありますが、明暗を認識する程度でほとんど見えていません。そのため、4対ある脚の内2対目の脚は、昆虫でいう触覚のような役割を担います。他の脚よりも長い2対目の脚で周囲を確認しながら歩き、地面に食物があれば口の前方に1対ずつある触肢(食べ物を掴んだり鋏角に渡す)と鋏角(ハサミ状で食べ物を切って口に運ぶ)を使って捕食します。初めて捕食シーンを近くで見た時は、少しエグくて印象が変わりましたが、動物のフンや地面に落ちた果実なども食べるので、子どもたちには「大切な森の掃除屋さんなんだよ」と紹介するようになりました。ザトウムシは、生態系においてはもちろん、私にとっても自然ガイドとして初めて人に紹介した愛着のある生き物であることから、大切な存在です。

ザトウムシは少しでも危険を察知すると、逃げるかその場に静止して、危険を感じる方に2対目の脚をアンテナのように伸ばして安全を確認します。本当のところは分かりませんが、しばしばそうした行動をします。捕食者などに捕まると、脚を自切して、動く脚に外敵が気を取られている隙に逃げて身を守ります。ザトウムシにとって、脚は移動手段だけではなく生きていく上で色々な役割があります。ある日森で、2対目の脚を失ったザトウムシを見つけました。よく見ると、1対目の脚で周囲を確認して歩いていました。衝撃を受けたのは私だけでしょうか？あるものを活用してたくましく生きるザトウムシに元気をもらおう7月です。(加瀬澤)



虫の死骸を食べるヒコナミザトウムシ